

第1回

スタッフのための糖尿病教室

インスリンに関するミニレクチャー

(2013年6月13日実施)

蘇生会総合病院 薬剤部

松本 嘉浩

1. ミニレクチャー

今回はインスリンに関するミニレクチャーを行います。第一回は患者さんの抱える不安について発表させて頂きました。

インスリン導入において、患者さんがどのような不安を抱えているかをいくつか挙げました。そして、その不安の具体的な解決策を提示しました。例えば自己注射が煩わしいとか針が怖いという患者さんの不安に対しては、実物のインスリンのデバイスや針を見てもらうことが重要です。実際にデバイスと針を用意して、みなさんに触ってもらい意見交換を行いました。

2. 講演

『患者さんの地雷が見える!? 療養指導のコツ』と題し、十条武田リハビリテーション病院の心理士である八木裕子先生よりお話いただきました。そして、相手のタイプの見当を付けるための心理テストのTEG IIをみんなで行いました。タイプを以下の5つに分けて、それぞれのタイプでやってはいけないこと(地雷)、指導のポイントを教えて頂きました。

CP; 自分の信念を否定されること。自分が納得することが大切、上から言われるのは嫌い

→まず相手の主張を聞き、理解を示す。

NP; 頑張りを否定されること。自分のことは後回し、理由つけてできない

→理解を示しつつ、自分のこととして考えてもらう。

A; 感情的に言われること。理論的なことを好む
→冷静に対応、筋道を立てて説明する。

FC; 我慢させられること。我慢できない、怒られてもこりない

→理解を示しつつ、必要性をくり返し伝える、楽しんでできることを考える。

AC; 怒られること。表面的にはいい子、悪いことは話さない

→できなくても怒らない、なんでも話せる関係を作る、誉めるようにする。

人は全ての要素を持っていて、場面によっても変わるためそのバランスに注目することが重要です。

最後に療養指導の最大のコツとして、上手いかわなくても全部自分のせいと思わないこと、相手の性格の問題でもあると考える、また次があると考え時間をかけていくことを学びました。

3. まとめ

ミニレクチャーの講義をさせて頂きましたが、改めて頭のなかを整理することができ、自身の勉強にもなりました。また様々な反応があり、職種や職場が違っていると見かたが違うことを実感しました。また療養指導においてタイプを意識して、日常の業務に生かしていきたいと思います。

